

## 第4章2 復興のシンボル「天守閣」の早期復旧

### (1) 市民・県民の復興のシンボル「天守閣」の2019年を見据えた早期復旧

#### ①天守閣の早期復旧の実現

2019年の秋のスポーツイベント開催時に合わせ特別公開第1弾とし、大天守の外観復旧した姿を天守閣前広場からご覧いただくことを実施。また、2021年3月に復旧工事が完了し、**予定通りの工事の進捗**となった。

⇒2021年春の公開は**新型コロナウイルスの影響により6月に延期**となった。

#### ②早期復旧に向けた取り組み

##### 1) 技術提案・交渉方式の採用：**実施済み**

⇒民間事業者の高度な技術を活用した事業提案内容を基に、事業毎に設計及び価格の交渉を行い、合意したうえで契約を締結。躯体や石垣の詳細な状況が不透明な上、技術的に難易度が高い天守閣の復旧整備は、この方式を採用しなければ早期復旧は成り立たなかった。

##### 2) 早期復旧に向けた工事用動線の確保：**実施済み**

⇒天守閣の位置する本丸エリアへの工事用動線として、行幸坂に石材が崩落した南大手門に鉄骨の架台を設置。また、2つの工事用スロープも設置し、天守閣復旧整備工事を地震から1年後に着工。



特別公開第1弾 (2019年10月)



天守閣復旧完了 (2021年3月)

### (2) 耐震化等による天守閣の安全性の向上

#### ①最新技術による耐震補強：実施済み

⇒既存の杭への影響を考慮し、耐震から制震へと考え方を見直し。熊本地震相当の地震に備えて天守閣内部の状況に合った補強方法を採用（クロスダンパー：耐震壁の箇所数を減らすことが可能となり、快適な展示ルートが実現）

#### ②跳ね出し架構の採用（小天守外周部分の一部）：実施済み

⇒石垣と建造物を分離することで、石垣の変動による建物の沈下を防止

#### ③屋根の軽量化：実施済み ⇒耐震性の向上

#### ④天守閣の防災・減災対策：実施済み

⇒障害を持つ方も含めた有事の避難の考え方を整理（竖穴区画・防災設備の設置等）

★安全対策やダンパーは敢えて露出させ、安心安全な建物となったことを実感することができ、復旧の見所の一つとなっている



クロスダンパー



3Qブレース



粘弾性ダンパー



土葺き→栈木に固定



防火シャッター

## 2) 「短期計画工程」及び「施策と具体的な取り組み」に関する検証

### (3) 天守閣のバリアフリー化及び展示・内装内容の刷新

#### ①天守閣のバリアフリー化：実施済み

⇒小天守入口へのスロープ設置（遺構への配慮）、多目的トイレ設置、小型エレベーターの設置（外観を変えずに、設置可能な大きさとした～車いすも対応可） ★最上階まで様々なお客様が移動可能となった

#### ②展示・内装の刷新：実施済み

⇒保存環境に制約が多いため実物資料の展示は行わないが、模型とプロジェクション映像の組み合わせや、シアター映像などで熊本城の歴史やエピソードを学ぶための工夫を施し、触れる展示やARアプリの活用などにより、誰もが楽しめる空間。

⇒大天守最上階からは、熊本城の復旧状況や被災状況が見え、ARアプリで、明治初期の古写真を景色に重ねて表示・閲覧。

★ご好評いただいている



エレベーター



小天守B1F



大天守2F



多目的トイレ



天守閣1F



大天守6F